

# 龍源寺報

秋彼岸号

|            |            |
|------------|------------|
| 臨濟宗・妙心寺派   | 住職 松原信樹    |
| 佛母寺住職 松原行樹 | 正福寺住職 松原行樹 |
| TEL        | 3451-1853  |
| FAX        | 3451-6094  |

振込 00160-0-104918 東京都港区三田5丁目9-23 (郵便番号 108-0073)

Email: info@ryugenji.com URL: http://www.ryugenji.com

## 秋彼岸に思う

まど・みちおさんの「水はうたいます」という詩を紹介したい。

水は うたいます

川を はしりながら

海になる日の びようびようを

海だった日の びようびようを

雲になる日の ゆうゆうを

雲だった日の ゆうゆうを

雨になる日の ざんざかを

雨だった日の ざんざかを

虹になる日の やつぽーを

虹だった日の やつぽーを

雪や氷になる日の こんこんこんを

雪や氷だった日の こんこんこんを

水は うたいます

川を はしりながら

川であるいまの どんどこを

水である自分の えいえんを

水が、今日は、川の流れであったり、明日は、雨であったり、明後日は、虹であったりと、状況によって変化する。例えば、雪だったら、私達は、雪が溶けて水になってしまおうと考えてしまおうが、

そこを、雪は、水の「いのち」に戻っただけだと考えてみる。すると、水という「いのち」を、今、海の姿として生きている。雨の姿として生きている。雪の姿として生きている。このように理解すると、この詩の素晴らしさがみえてくる。そして、詩は、未来形と過去形をおりませながら、水の「いのち」を表現している。まさに、『般若心経』に説かれる「不生不滅」(生ずることもなく、滅することもない)が、詩に描写されている。そして、最後に、川である今のどんどに徹して生きることが、水である永遠の命を生きることになるという。

縁があつて、今、私は、松原信樹という僧侶の名を授けてもらい、このような顔や体型で、住職をさせていただいている。どのような所に行つても、そこに徹して生きていくことが、不生不滅(=永遠のいのち)を生きることであり、そこには、必ず生・老・病・死が、裏合わせになっている。だから、病気だったら、病気の今を生きる。老いだったら、老いをつとめあげることが、不生不滅(=永遠のいのち)を生きることになる。

亡き人は、見ることもできないし、話すこともできない。しかし、無くなつたわけではない。そのことを、仏のいのち(不生不滅という永遠のいのち)に戻っただけだと理解する。すると、亡き人は、いつでも、あなたと共にある。亡き人の分までも、私の人生を、生きることが、亡き人への供養である。

## 観音さまに

金三万円也 勝田 明子 殿

## 経蔵寄付

金五万円也 和久 洋二 殿

## 日月庵寄付

金五万円也 武内 殿

## ありがとうございました

### \*経蔵建立のこと

泰道和尚から三代続く境内整備の事業を引き続き私の代でも継承し、将来は、境内の一角に『大般若経』を納める経蔵を建立したいと思っております。『大般若経』を納める所以は、泰道師・哲明師が、『般若心経』を説き続けてきたことによります。『大般若経』の写経も順調に進んでおります。ご寄進はその基金にさせていただきます。

## 秋ひがん法要

左の通り行ないます。ご家族そろってお参りください。

一、九月二十三日・秋分の日（午前十一時より）

一、読経 ・導師 松原 行樹師

一、法話 （住職の実弟。正福寺住職）

一、齋座（おとぎ）

※駐車場はありません。南北線をご利用ください。

### 龍源寺への交通の便（地下鉄）

- 都営三田線（目黒または三田、南北線は白金高輪駅下車。徒歩五分）
- 2番出口から地上に出ると案内看板に「龍源寺」名あり

### 龍源寺への交通の便（都バス）

- 田 87 渋谷駅ー田町駅 魚ラン坂下下車
- 都 06 渋谷駅ー新橋駅 古川橋下車
- 品 97 品川駅ー新宿駅西口 魚ラン坂下・古川橋下車
- 反 96 五反田駅ー品川駅ー六本木ヒルズ（循環）  
魚ラン坂下・古川橋下車
- 東 98 東京駅丸の内南口ー目黒駅 魚ラン坂下下車

龍源寺の定例会 禅の会・TKC坐禅会・仏像を彫る会

禅の会（坐禅体験）

指導・松原信樹

定例日・毎月第一土曜日。（一月は、午後の部のみ開催）

時間（二回）・午前十時～十二時、午後一時三十分～三時三十分

内容・坐禅とお話

会費・来会の時二百円

その他・晩夏又は初秋に北軽井沢・日月庵でも開催

サラリーマンの方・女性の方・学生・会社の社長さん様々です。大体八十～百人位。

年二回春と秋に行われる軽井沢「作務の会」も長年にわたる恒例行事のひとつです。

TKC坐禅会

指導・松原信樹

定例日・毎月第一土曜日

時間・午前八時～九時

会費・千円

第一土曜日の朝八時から読経、坐禅をし、お話があります。

TKCとは税理士さんのグループで、皆さん熱心に坐禅をされております。

仏像を彫る会

指導・三木童心

定例日・毎月第二土曜日、第四土曜日

時間・午前十時三十分から

十二時三十分（初心者）、

午後一時三十分から四時

会場・龍源寺花園会館

会費・二千円

北軽井沢・日月庵「禅の会」

北軽井沢日月庵坐禅堂にて毎年恒例の「禅の会」を開催いたします。秋の日月庵禅の会は、作務（布団の整理・枝打ちなど）・坐禅・そして、ささやかな親睦会を行います。坐禅の時間は、さほどとれませんが、坐禅初心者の方にはよろしい機会かと思えます。万障お繰り合わせの上、是非ご参加いただければと思います。

日時・平成二十六年十月二十五日（土曜日）～二十六日（日曜日）一泊二日

日月庵に現地集合・現地解散

十月二十五日・午前十一時、星雲苑研修所集合 ※昼食は持参してください。

十月二十六日・午前十時頃解散

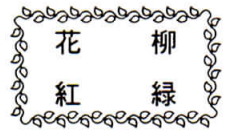
持ち物・シートとタオル2枚

所在地・群馬県吾妻郡長野原町北軽井沢

日月庵坐禅堂

電話番号・〇二七九一八四一四二〇六

費用・宿泊費・食費無料



秋彼岸を迎えます。今年の秋彼岸会の導師は、ご存知の方も多いいと思います、私の弟でもある、正福寺住職・松原行樹師にさせていただきます。私自身、九月十六日から二十三日まで、本山である京都・妙心寺に詰めることになりました。その所以は、今年五月に本山での高等布教講習会で適任証を拝受し、その修習期間と重なったためです。ご理解の程、宜しくお願い申し上げます。適任証をいただいたことで、泰道和尚・哲明和尚の歩んだ布教の道を歩むことになりました。勉強の方法は、三人とも違いますが、遺していただいた本の中の書き込みや、ノートを見ていると、血のじみ出るような努力の跡や、インターネット検索では、決して出来ない、手作業での資料の発掘の痕跡、そういうものをみて、私も覚悟をもって、歩んでいきたいと思っております。▼将来、お寺の後方の隣接地に、大きなマンションが建設されるようですが、高層化は避けられないの

ですが、騒音問題など、色々な問題が山

積みです。静寂な境内の環境は、死守していきたいと思っております。▼泰道和尚から三代続く境内整備の事業を引き続き私の代でも継承し、将来は、境内の一角に、新年の祈祷会で転読する『大般若経』を納める経蔵を建立したいと思っております。『大般若経』を納める所以は、泰道師・哲明師が、『般若心経』を説き続けてきたことによりです。『大般若経』の写経も順調に進んでおります。ご寄進はその基金にさせていただきます。▼お檀家様で、お葬式をだされる場合、知っている葬儀社がない方は、葬儀社を紹介させていただきます。いざ、ご家族が亡くなると、なすべき事がたくさんありすぎて、慌ただしいのが現状です。仏事に慣れている僧侶の私でさえ、非常に慌ただしい体験をしました。もし、お葬式をだされる場合、僧侶がいらないとお葬式ができないゆえに、まず、一番はじめに龍源寺にお電話を入れていただきたいと思っております。龍源寺本堂もしくは、花園会館を使用してお葬式・家族葬・密葬も執り行うことができます。(本堂・花園会館使用の際は、指定

業者となります。)又、生前のご相談もうけさせていただきます。▼渋谷区広尾にある東北寺内龍源寺墓地・合同船は、墓地の継承者を気にしなくてもよい永代供養塔です。龍源寺の規則を守っていただければ、どなたでもこのお墓を使用できます。▼八月に日月庵で、現代禅研究会が開催されました。二十名近い僧侶の方々が研鑽され、日月庵の大切さを実感しました。▼母は、学校の茶道部の夏期合宿の指導で、軽井沢に行っていたり、千葉の仏母寺にお手伝いに出かけたり、民生委員のお仕事があつたりと、忙しく過ごしています。実母と一緒に、龍源寺におり、とても幸せそうです。妻・亜矢は、会社の仕事と、お寺の仕事を両立してがんばっています。お寺の生活にも、少しずつ慣れてきています。二人の弟は、二児の父親になり、家庭と仕事を大切に行っております。お手伝いの鈴木君も、がんばって境内を綺麗にしてくれています。▼九月二十二日午後一時より、ちらし寿司の野菜の刻みを行います。お手伝いいただける方、宜しくお願い申し上げます。(信樹)